

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 2階		
所在地	〒020-0142 盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和4年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花壇や周りに様々な花を植え入居者様が職員とベンチに座り花を見たり摘んだり楽しませている。住宅地に立地している為花を通じて通りがかった近隣の方々と話が弾んだりしている。施設内は日が差し込むことと木がふんだんに使われており温かみのある建物になっている。転倒骨折事故のリスクをクッション床を導入する事により軽減するよう配慮し、緊急避難時備え各居室にペランダを備えている。感染症への対策として清掃方法は、オフローションシステムを導入し掃除用具を色分けするなどし清潔保持や洗浄効果等に配慮している。トイレや浴室、居室、廊下の手すりには防カビ・殺菌・消臭効果を目的として光触媒を加工している。利用者は一人一人の生活のリズムに合わせクラフト・編み物・パズル等行いのびのびと生活して頂いている。利用者様がお手伝いに参加したり、ご自宅で過ごしているようになりラックスできる空間を設け、利用者様同士や職員と一緒に談話出来る温かみのあるグループホームを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の経営会社が環境管理や衛生管理業も行っており、コロナ禍が広まってきた時期から、安全で清潔な施設環境の維持に努め、遮閉設備や密回避のスペース確保に取り組んできている。利用者は、使い慣れた家具や寝具、馴染みの物を持ち込むことができ、落ち着いて居心地よく過ごせるようになっている。事業所理念の平成4年度の行動計画に「感染しない、持ち込まない、うつさない」を掲げ、日光浴や散歩、こまめな水分補給、軽体操による筋力アップなどを設定している。栄養管理された献立により、旬の食材を取り入れ利用者と職員が楽しく食事の時間を過ごしている。利用者の身体機能の維持・向上を図り、健康で穏やかな生活を送れる支援に努めている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階・2階で基本理念に基づく内容を職員の目につきやすい場所に掲示している。管理者・職員が理念を共有するために確認するようにしている。	会社が定めた基本理念を踏まえ、事業所独自に職員が話し合い年間テーマを決めている。さらに四半期毎に具体的目標を設定し実践している。その後、反省点を話し合い、それを生かした次の目標を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板で地域の行事・活動等確認している。地域の方々に運営推進委員になって頂き協力や助言を頂いている	現在はコロナ禍により、町内会の活動に参加することや事業所で地域行事を開催することを控えているが、運営推進会議の委員に地域の代表の方々が参加していただいていることから連絡を取り合い、つながりは継続している。	事業所で行っている感染防止対策やコロナに負けない室内活動など、事業所を理解してもらうチラシを町内会の回覧板に挿んでもらい、地域とのつながりを継続出来るよう取り組んでいくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を施設に招き認知症の方を理解して頂いたり地域交流会を通じて地域の方々へ発信している。(今年度はコロナの影響もあり開催できず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣住民の方に委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見やアドバイスを頂く等している。	現在は感染防止対策により、書面開催としている。配布資料の内容への質問や意見、助言は、電話で聞いている。利用者の委員としての出席はコロナ禍収束後の対面会議実施の際にと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や疑問点は都度介護保険課等に電話で問い合わせしている。また情報は、盛岡市役所などメール等で情報提供して頂いている	行政情報の提供や感染防止対策用品の報告などを市の介護保険課と電話やメールで行っている。市直営の西口地域包括支援センターからは入居希望者の情報をいただいている。社会福祉協議会のあんしんねっとや成年後見制度などは、部内研修で参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月おきに全体会議や勉強会等で身体拘束廃止マニュアルの内容説明や質疑応答を行っている。施錠に関しては防犯の為です。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、全体会議などを3か月ごとに開催し、内容は運営推進会議に報告し委員から意見を伺いながら、スピーチロックを含めた身体拘束をしないケアに努めている。玄関ドアは、防犯のために施錠しているが、利用者が玄関ドアに向かったときは開錠して、職員が付き添って外に出れるようにしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・リスクマネジメント委員会で討議し、些細なことでも見逃さないよう日々職員同士で注意を払い、未然に防げるよう努めている。又勉強会も開催している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は、担当者が市の職員と協力しながら対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をすると共に疑問や不安感を伺い理解して頂いた上で契約及び退去となっている。又、入居・退去後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で問い合わせに関しては随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に家族代表に参加頂き、助言・協力を頂いている。又面会時や行事等の際に要望等を効くように努めている。その他にも、玄関にご意見箱の設置を行っている。日々発せられる言葉から利用者の希望・要望を汲み取るようにしている	利用者の意見や要望は日々の会話の中から汲みとっており、〇〇に行きたい、〇〇を食べたいが多く、食事やおやつなどで取り上げるようにしている。家族からは面会についての要望が多くあり、コロナ禍の中で家族に利用者の様子を伝えることについて目標達成計画を立て、事業所便りの発行回数を年4回から6回に増やすとともに、日常生活の様子の写真も載せ、家族に利用者の近況を伝える取組みを行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。要望書を作成し職員個々に意見・要望を聞く機会を設けている。	会議に限らず職場の中で、何でも話せるよう取り組んでいる。年2回書面で管理者に意見や要望を出してもらっている。意見、要望は勤務条件、業務改善、提案、人間関係など様々なものがあり、内容に応じて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心とし職員が各々役割を持ち、やりがいや評価しやすい環境が作られている。又、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ勉強会委員が主体となり園外・園内研修を調整・実施している。資格取得のための研修等への参加に配慮した勤務体制とし、資格取得後は会社既定の手当を支給している。園外研修参加時には後日園内勉強会で報告し職員全体に反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の岩手地域密着サービス協会の会議や地域ケア会議・いわて地域密着型サービス協会主催の交換研修に参加している。(コロナの影響で見合わせ)		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、事前面接時に本人や家族の心配事や不安を傾聴し状況把握に努めている。又、出来る限り本人も施設見学に来て頂き不安の解消が出来る様信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を把握した上で困っている事、不安や要望を汲み取り支援の方向を決めている。面会時ために近況報告をし本人、家族の想いを大切に共に考え信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面会、話し合い等で本人に合ったサービス利用の提供を自事業所のみでなく情報の提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の個性を活かし今できる所を大切に信頼関係を築きながら職員と共に生活をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助をお願いしたり季節の行事に参加して頂く等共に過ごす時間を大切にしている。また、外出・外泊の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒になじみの場所へ出かけたりゴールデンウィークやお盆・お正月には自宅外泊で家族と過ごしたりお墓参りしている。(本年度はコロナの影響により面会・外出等制限している)利用者は定期的にお願している訪問福祉床屋の利用を喜ばれている	コロナ禍により、馴染みの人との面会や外出は制限しているが、家族に年賀状や手紙を出したり、電話をすることを取り持つなど、関係が途切れないよう支援に努めているほか、高松の池などにドライブに出かけたりしている。また、頭髪の手入れや爪のケアで、理髪師や施術師に定期的に訪問してもらっていて、馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの利用者様同士の交流に加え職員が間に入ることで他の利用者が交わり関りを築けるようクラフト作品をみんなで作り完成させ、達成感や喜び等を得られるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族や本人に合った環境等を紹介し今後のサービス内容の提案等を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく話した言葉が本人の希望や要望であることがあるため見逃さない様になっている。利用者の行動や表情を観察し気が付いたことを業務日誌や申し送りノートに記録し職員間で共有している	大半の利用者は言葉で意思表示ができていますが、思いは表情や仕草から感じ取るようにしている。職員の勝手な思い込みにならないよう引き継ぎノートで共有し、思いに寄り添ったケアが出来るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活の様子を家族、担当ケアマネ、本人から伺い日常の会話や行動等から生活歴を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週間トータルチェック表を元に排泄、入浴、食事量の把握に努めている。毎朝の体操時、毎食前に行っている口腔体操時の動きや表情、発声の仕方など変化を汲み取っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で常にモニタリングをし申し送りや3か月ごとの会議を通じて介護計画を作成している。申し送りノートや介護支援経過を活用し、声掛けや接し方にばらつきが無いようにチームケアしている。	職員は日々の支援の中でモニタリングを行ない、申し送りノートに記載し、3か月ごとのケース会議でカンファレンスを行なっている。6か月ごとに介護計画を見直し、作成した介護計画は家族の同意を得ている。職員が介護計画に添って介護出来るよう一覧にして作成している。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用できるサービスの充実を図っている。家族の状況も視野に置き現状を把握し事業所ができることを柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの影響もあり、地域交流の場は設けられなかったが町内の子供会で行っている紙芝居の読み聞かせの実施を町内会長へ要望している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の要望に沿っております。御家族が元々のかかりつけ医に受診する際には園内の様子を細かく報告している。必要に応じご家族同意の元専門医(歯科・皮膚科・爪切り)の往診をお願いしている。御家族が高齢や仕事の都合で受信が困難な場合は園で対応している	入居の際にかかりつけ医を自由に選択できることを説明し、入居前のかかりつけ医を受診している利用者が多い。基本的には家族同行の受診としているが、家族が同行できないときなどには職員が同行している。家族が同行する際は、利用者の健康状態を情報提供書に記載して家族に手渡している。受診結果についても、家族から聞き取りして情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在ですが急変時は協力医の指示で適切な医療を受けれるよう支援している。些細な変化を見逃さず早期発見に努めている。緊急性がある場合は救急車の要請をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、園での生活状況や、介護の方法を情報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合いながら支援している。必要なものを届けたり洗濯等の支援に努め、退院後はサマリーを活用し症状の変化に注意している		

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。ご本人の意思を最大限に尊重し医師により終末期と判断された時は、ご家族・医師・職員担当者会議にてご本人に一番いい方法を検討している。また終末期の対応について御家族の意向を把握し方針を職員と共有しながら日常生活を継続している	重度化した場合の対応と看取りの指針を定め、本人・家族が希望する場合は、医療機関の協力の下で看取り介護を行うこととし、入居の際に説明し話し合っている。入居後も状態の変化に応じて話し合いを行なっている。看取り介護を望んでいる利用者・家族はいるが、これまで実際に看取りを行った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成・掲示し職員間で共有している。また定期的な勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の協力を頂き年2回避難訓練を行っている。ハザードマップで浸水危険地域となっており、緊急連絡網、水害時の避難訓練等の自主防災訓練を行い、災害時対応できるようにしている。AEDを常備し、災害時用として米・水等の食料品を備蓄している	避難訓練は年2回計画している。11月は夜間を想定した避難訓練、2月は2Fが火元の訓練を計画している。浸水危険地域に指定されていることから、水害時には2階への垂直避難や車を利用して同会社の他施設への避難を想定した対策を講じている。	災害時における地域との協力体制について、運営推進会議の対面での会議が可能になった場合は、地域の方々も訓練に参加してもらい、基本的な役割を明確にした協力体制を築かれるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを大切に一人一人が分かるよう声掛けしている。居室入口に、暖簾・表札を掲げプライバシーと人格尊重に配慮している。気になる点は都度申し送り等で話し合っている	職員は利用者を年長者として敬い、苗字に「さん」付けて呼びかけるとともに、利用者のこれまで生活してきた背景を把握して、一人一人に合った声掛けを行ない、誇りを傷つけないように努めている。トイレへの声掛けや失敗した際などにも、プライバシーに配慮し、目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が日々希望することや決定が難しいよう選択できるような声掛けで促している。玄関先のベンチで外気よくした際傾聴し、ご自分の思いを表現し自己決定できるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごして頂けるようにしている。体調等を考慮・危険がある場合を除き御本人の思いに添えるよう努めている		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の中から御本人の好みの洋服を選んで頂いている。2か月に1回訪問福祉床屋を利用している。毎朝お化粧する方もおり、化粧品は無くなる都度職員が対応している。週に一度整容の日を設け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った旬の食材を使い盛り付けや食器も工夫している。お好みにより調理法を変えたりしている。必要に応じてトロミや刻みで対応している。食事準備・テーブル拭き・食器拭き等お手伝いして頂いている	栄養管理された献立表を本社が作成し、各事業所が食材の調達と調理を行っている。季節の旬のものを食材に話が弾み笑顔が見られる。利用者は自分のできることを手伝い、体を動かしている。食事前には嚥下体操を行い美味しくいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合わせた食事量を考え提供している。水分を取らない方にはスポーツドリンク等提供し声掛けしている。むせ込み等ある方にはトロミ粉を活用している。ご自身で食べることの楽しみを援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや誘導で歯磨きをしている。必要な方にはブラッシングの提供をしている。状況に応じて家族同意の元、往診を受けている。夜間帯は義歯を洗浄剤に浸け清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度の高い利用者様には定期的な声掛け。介助が必要な利用者様には定期的な誘導をしている。排泄チェック表を作成・記録し汚染の軽減ができるよう支援している	利用者全員が終日トイレを使用している。10名ほどの利用者にはその都度、声掛け介助を行っている。これからもトイレ使用を長く継続できるようにと職員は筋力維持体操などを工夫して行っている。リハビリパンツを使用している利用者はいるが、オムツを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操・歩行運動・腹部マッサージを行っている。水分補給や食物繊維の多い食品の摂取の工夫をしている。便秘薬の必要な利用者には主治医と連携し適切な便秘薬を処方して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2・3度の割合で、午後に入浴している。その日の体調や本人の意思を尊重し入浴の声掛けを行っている。入浴しない日は就寝前の下着交換と共に清拭タオルで清拭している。菖蒲湯・柚子湯で季節を感じて頂き、入浴を楽しいものとしている	基本的には、週に2、3回、午後1時から3時までの入浴としているが、希望があれば回数を増やす対応も取っている。清潔保持は当然だが、のんびりとしながら利用者と職員が1対1になり、利用者は昔のことなどを思い出し話が弾む時間である。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビ視聴や馴染みの利用者様との団欒で安心して就寝できるような時間を提供している。また、何回も同じことを確認される利用者様の訴えは傾聴したり安心して声掛けで安眠できるよう工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の病気を把握しお薬説明書を参考に職員間で共有している。服薬介助時は服薬確認シートを活用し誤与薬のない様に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を尊重してできることはやっている。食器拭き・洗濯たみ等やっている。季節行事の準備(クラフト)等楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナの影響で自粛しているが、天気の良い日は園周辺の花を摘んだり玄関先のベンチで外気浴等、今できることを支援している。例年お花見・紅葉ドライブ等行っている。	コロナ禍により、日常的な外出は控えているが、玄関先のベンチで外気浴をしたり、事業所の周辺で花を摘んだり短時間でも行っている。春には桜を見に高松の池にドライブに出掛け、秋には高松の池や御所湖にドライブに出掛け紅葉を楽しむ予定としている。また、外出制限をしている中での気分転換のため、屋内でのレクリエーション活動の充実に取り組んでいる	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で管理されている利用者様はおりませんが、買い物レクを企画し購入する機会を作れるよう検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年利用者様の手書きの年賀状を送っている。郵便物や贈り物が届いた際はお電話している。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 2階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは快適に過ごせるよう温度・光・音に十分配慮している。食堂や玄関には季節を感じるような装飾、又利用者様と職員で協力し作成した塗り絵や貼り絵を飾り、廊下には行事で撮った写真を飾り思い出作りの工夫をしている。	ホール全般が広く明るく開放感がある。温度、採光、換気、テレビ音量も調整管理されている。季節がら、多くの時間を過ごすため、テレビ体操、カラオケ体操、踏み台昇降などの軽体操やぬり絵、貼り絵などの創作活動を行い、水分補給としてカフェオレ、お茶で一服して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあり、そこで足を伸ばしたり新聞を読んだり洗濯たたみの手伝いをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際使い慣れたものを持参して頂けるようお願いしている。居室にはパネルヒーターを設置し都度温度管理を職員が調整している。	居室には電動式ベッド、クローゼット、パネルヒーターが備え付けられている。利用者は、使い慣れた家具や寝具、馴染みの物を持ち込むことができ、落ち着いて居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう張り紙をしている。居室入り口には表札に名前と顔写真を貼り、居室前の表札を確認し安心して入られる利用者様もいる		